

## テサロニケ人への手紙 # 13

「教会の秩序：キリスト者のつとめ」 | テサロニケ人への手紙 5 章 12 節～15 節

2021.1.10

## はじめに

2021年を迎えて、年頭に年間聖句を祈りの内に選ばせていただきました。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」へブルへの手紙 12 章 2 節の御言葉です。いまだ新型コロナウイルスによるパンデミックは収まるどころか、勢いを増しています。日本でも一昨日 8 日に、都市部では 2 度目の緊急事態宣言が発動されました。

私たちはコロナが猛威を振るう中であっても、クリスチャンの基本を大事にして生活しましょう。日常の中で聖書の御言葉に親しむことによって、私たちは神様から具体的な力と恵みを得ることができます。また進むべき道を導かれ、神様に栄光を帰すことができる年となります。また私たちはとりなしの祈りによって兄弟姉妹が弱さを補い合い、キリストの愛の律法「互いに愛し合いなさい」という命令に従ってまいりましょう。

さて、昨年 6 月からスタートしました「1 テサロニケの講解メッセージ」もゴールが見えてきました。パウロはこの手紙の中心メッセージ「終末」については教えを終えました。最後の 5 章の後半では「具体的な勧め」と「結びの挨拶」をもって締めくくられます。具体的な勧めは 4 つのことが勧められています。今日はそのうちの 2 つを取り上げます。

## アウトライン

1. 教会の指導者との関係
2. 教会員同士との関係

## 1. 教会の指導者との関係

5:12 兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主においてあなたがたを指導し、訓戒している人たちを重んじ、

5:13 その働きのゆえに、愛をもって、この上ない尊敬を払いなさい。また、お互いに平和を保ちなさい。

まず、パウロはテサロニケ教会の兄弟姉妹に指導者との関係について勧めます。ここで注目したいのは、パウロの謙遜と情熱です。彼は兄弟たち、あなたがたにお願いします。という言葉を使っています。使徒として命令するのではなく、心からこのようにしてほしいと願っています。テサロニケの教会は、神の御業によって約三週間余りで立ち上がった奇跡の教会でした。兄弟愛においては、この地域の模範的教会でもありました。でも問題がなかったわけではありません。パウロが指導する時間が短かく、聖書教理、特に終末について誤解があったことはすでに学んできました。それに加え、教会の秩序を乱す人たちがいたことがこの箇所から伺えます。神が立てられた権威に従うことを嫌う人たちがいました。そこでパウロはこのことについて兄弟姉妹にお願いしているわけです。

ここで二つのことが勧められています。一つは教会に指導者として立てられた人を重んじること。もう一つは尊敬を払うことです。この「重んじる」と「尊敬を払う」という二つの動詞は、ほぼ同じ意味で使われています。二つとも「評価する」という意味があります。つまり指導者の働きを正当に評価するように教えられています。どうして指導者に対してこのような態度が求められるのでしょうか。

聖書は次のように教えています。

ロマ 13:1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。

13:2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従う逆らうのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます。

神は無秩序な神ではなく、平和の神です。神はご自分が立てられた秩序を破壊することを憎まれます。教会が神の教会である以上、秩序と平和は欠かすことのできない大事な要素です。この世の組織においても、秩序は大切ですが、教会においてはその比ではありません。教会の中で、意図的に秩序を乱すという行為は、教会の破壊につながり、神への反逆を意味します。

間違っていないのは、教会の指導者は決して支配者ではありません。唯一の神を父とする神の家族の中で仕える者です。指導者が重んじられ、敬われるのは本来あるべき姿である時です。つまりその働きができています。その意味でこの御言葉は、教会にとっては指導者を見極める責任が求められ、指導者にとっては、神から自己吟味を求められる御言葉です。

指導者のあるべき姿、なすべき働きを見てみましょう。

パウロが 12 節で

あなたがたの間で労苦し、主においてあなたがたを指導し、訓戒している人たちと言っているのは三種類の人のことではなく、一人の指導者が果たしている働きのことです。神に立てられた教会の指導者は、この三つの働きをしているというのです。

第一に「あなたがたの間で労苦し」これは靈的な労苦を意味します。講壇の奉仕で御言葉を解き明かし、それを適用すること。牧会者として靈的に助け、励まし、とりなしの祈りを絶やさないこと。これらの奉仕は、神への献身と自己犠牲なしにはできません。神に立てられた指導者は、例外なしに牧会生活の中で労苦をいたします。労苦なしに一人の人を靈的に育てることはできないからです。私たちの誰もが、自分のために労苦してくださった靈的指導者によって育てられてきました。これは子供を育てる親の働きのようなものです。確かに骨の折れる仕事ではありますが、親にとっては苦痛ではなく、むしろ喜びなのです。またこの働きは牧師、役員にとどまらず、信仰の先輩であれば、皆がやっておられることです。それは兄や姉が弟や妹の面倒を見るようなものです。ただ責任をもってこの働きをするのは、教会において指導者として立てられている牧師であり、教会役員であるのです。

第二に、主にあってあなたがたを指導しているということです。この働きは特に牧師や伝道師にあてはまります。牧師や伝道師は、主が与えられる靈的権威によって、教会を導き、牧会する責任があります。また主からいただいた賜物によって、靈的な指導をします。ここで主にあってという言葉が使われていますが、それは主によって立てられた者として、主への恐れとおのきをもって指導させていただくという意味です。指導する者が人間的に立派だからでも、偉いから指導するのでもありません。ただ主の恵みによって、この働きに召された僕として指導します。教会における指導者の靈的権威は、全く主によるものであり、効果的な指導がすることができるのは、ただただ主にあってのみです。

第三に指導者たちは、訓戒している人たちです。指導者は信仰的に間違っている信徒や、罪を犯している信徒を正し、勧告します。これらの奉仕は、肉体的にも精神的にも消耗するものです。これはキリストにある愛がないとできない働きです。その人のこと心底思い、愛することなしに人を叱ったり、戒めたりはできません。また指導者には群れを守る責任もあります。異端や分裂とは徹底的に戦わねばなりません。教会外からの迫害がある時には、信仰の自由を守るために戦う必要があります。

このような三種類の神の働き。労苦し、指導し、訓戒する。この働きを忠実にやっている教会の指導者に対しての態度として、彼らを重んじ、尊敬しなさいとパウロは勧めています。

## 2. 教会員同士との関係

5:14 兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠惰な者を諭し、小心な者を励まし、弱い者の世話をし、すべての人に寛容でありなさい。

次にパウロはすべての教会員に対して、教会全体のことについて思いを留めるようにと薦めています。具体的には今までの手紙の内容に出てきた、テサロニケの教会の状態から、三種類の人たちに対してなすべきことが記されています。①それは怠惰な者～すなわち仕事に就かないでいる人たち。②小心な者～思い煩っている人たち③弱い者～信仰の弱い人たちに対してです。

①怠惰な者：「仕事に就かないでいる者」と訳された言葉は珍しい言葉で、新約聖書の中にはここ以外には出てきません。もともと軍隊用語で「隊列を離れていった兵隊」を意味していました。途中で自分の働きを投げ出してしまった人たちのことです。当時のテサロニケ教会には、キリストの再臨に対す

る熱狂派がいて、自分の仕事も辞めて、他の人の世話になり、何もせずにキリストの再臨を待望していました。自分たちと同じようにしない人たちを軽蔑し、教会の秩序を乱していたのです。パウロはこの人たちについては、黙認してはならず、諭すことを命じています。それは教会の秩序を乱し、教会の前進を阻む原因となるからです。

②小心な者：「思い煩っている者」を励ますようにとされていますが、この「思い煩っている者」と訳された言葉も、新約聖書の中にはここ以外には出てきません。もともとは「小さな魂」という意味で、特別な事情の下で落胆してしまっている人たちに事です。テサロニケ教会ではすでに死んでしまった信者の事や、自分自身の救いについて思い煩っている人たちがいました。この人たちを励ますようにとパウロは勧めます。この人たちは教会をかく乱する人ではありませんが、落胆し、思い煩い人々をほっておいたり、軽視したりすることは、神の御心ではありません。それでは教会は前進しません。

落胆し、思い煩っている人には、まず何より御言葉の正しい理解が必要です。パウロはこの手紙で終末について誤解をとき、正しく教理を教えました。御言葉の正しい理解は私たちの信仰を強めます。また聖書は「I ペテ 5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

と言います。なんと心強い御言葉でしょうか。今も生きて働いておられる全能の神があなたを心配してくださるのです。主は言われます。いっさいすべての事柄を私にゆだねて生きなさいと。

これは信仰の旅路の中で、だれもが何度も通る道です。あなたが兄弟姉妹の交わりの中で、落胆し、心配事のために主を見上げられなくなっている人に気づいたら、「どうしたの」と声をかけてください。そして共に主イエスを仰ぎ、思い煩いを取り除いてくださるよう祈り合いましょ。またある時は、聖霊様があなたに、ひそかにとりなすのがベストだと教えてくださるかもしれません。どんな時も聖霊様に相談して愛を実践しましょう。神は思い煩っている人が立ち直って、戦列に復帰することを望まれています。

③「弱い者」を助けるようにとされています。この弱い者とはテサロニケ教会のケースでは、肉体的に弱い人、経済的に困っている人のことではなく、信仰の弱い人たちを指しています。特に性的な誘惑に負けてしまいやすい人たち。それと迫害や、世の人々からの非難中傷に耐えられない人たちです。この人たちが信仰において弱い人たちだとパウロは言います。

この人たちも交わりから無視されたり、追放されたりしてはいけません。信仰の先輩は彼らを助ける責任を負わされています。主の戦いにおいては、こうした弱い兵隊たちを見殺しにしているはいけません。全員がお互いに弱い者たちを助けて、強めて、共に主の戦いをしていくことが大切なのです。

オオカミの群れのたとえ (因みにこのオオカミの群れの説には、異論もあるようです。)



これはオオカミの群れの写真です。この写真の中で、先頭に歩いている三匹（赤色で表示された）は、年老いたオオカミと病気のオオカミです。群れ全体の進行速度を調整して、誰も遅れないようにしています。

その後を追う5匹（黄色で表示された）は、群れの中で最も強く優れたオオカミであり、敵の攻撃があったとき、正面を守る任務を引き受けています。

その後の中間の群れは常に外部からの攻撃からの保護を受けます。子どもたちや、まだ弱いオオカミがこれに当たります。

群れの中の緑色に表示された5匹も強く、優れたオオカミたちです。後方からの攻撃があった場合の防御の任務を引き受けます。

最後に離れてついてきている（青い矢印）一匹が、この群れのリーダーです。誰も取り残されないようにすることが彼の任務です。群れを統合し、全体が同じ方向に行くように導く役割を果たします。彼は群れの「ボディガード」として全体を見守り、自分を犠牲にして群れを守るために、常にどのような方向にでも動ける準備ができています。

信仰生活においても、誰もが初めは幼い新米クリスチャンです。教会の指導者や先輩たちに祈られ、教え導かれて歩みます。しばらくして信仰が成長すると、自分のことだけではなく、教会全体に目を止めるようになります。そして賜物に応じて、神と教会に仕える喜びを知り、これを生き始めます。その中には召され、牧師、伝道師に任命される人も出てきます。また皆から選ばれ、役員として教会運営に携わる人も出てきます。そして当然ながら、私たちはいつまでも現役ではありません。このオオカミの群れのように年配の信徒たちはその役割があります。そうやって次の世代へとキリストの体である地方教会も受け継がれていきます。

最後に 5:15 だれも、悪に対して悪を返さないように気をつけ、互いの中で、またすべての人に対して、いつも善を行うように努めなさい。

パウロは結論として「すべての人に善を行うように努めなさい」と結んでいます。前述した三種類の人々は、当時のテサロニケ教会だけに存在したわけではありません。今日のどの地方教会にも多かれ少なかれこの三つの要素を持った人は存在します。

間違ったことを主張している熱狂の人たちに対しても、忍耐を持って戒めることが必要です。間違った知識のために思い煩っている人たちに対しても、その無知を責めるのではなく、正しいことを教え、その信仰を励ますことが必要です。また、すぐにつまづき誘惑に負けてしまう弱い信仰の人たちに対しても、温かい配慮を持って助けてあげることが必要です。「寛容である」事は反対の「すぐ怒る」とか短気を起こす事ですから、ここでは何事も短気を起こさず、早急に自己判断しなようにと言う勧めでもあります。つまり愛こそが教会のしるしなのです。「愛はすべてを我慢し、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます」

そしてこの愛と寛容は、前述の3種類の人たちに対してだけ示されるものではなく、すべての教会員がお互いに示し合うべきものです。そのことを、パウロはように勧めています。5:15 だれも、悪に対して悪を返さないように気をつけ、互いの中で、またすべての人に対して、いつも善を行うように努めなさい。

これはイエスが教えておられるところです「しかし、私はあなた方に言う。あなた方の敵を愛し、あなた方を迫害する者たちのために祈りなさい。」

クリスチャンが悪に対して悪を返さず、すべての人に対して、いつも善を行うようことができるのは、キリストの御霊をうちに宿しているからです。聖霊が私たちのうちに住んでいてくださるからです。私たちはなかなかそれができませんが、キリストを私たちの心の王座に迎える時、キリストの霊である聖霊様が私たちの心を通してそれをしてくださるのです。

クリスチャンはいつも善を追い求めます。それは同じ信仰を持っている人に対してだけでなく、この世の人々に対してでもです。私たちは悪意の人であることはできません。もしも私たちが誰かに対して悪意を抱き、悪意を持って行動しようと言う思いが湧いてきたら、キリストを心の王座に迎え、キリストによってその思いに打ち勝ち、勝利を得ることが必要です。そうでないと、教会は教会でなくなり、この世と少しも変わりがなくなってしまう。

クリスチャンは生涯を通して熱心に善を追い求めなければなりません。どんな人に対しても、どのような時でも、善のみを追い求め、人々の祝福のみを願う人にされるよう祈り求めましょう。主は御心に従って真剣な信仰生活を送ろうとする者を、必ず御心になつた者にしてください。そして神の御心はあなたが愛の人になることです。